

全国ろう学校PTA連合会会長 柴田 祐一

会員の皆様はじめまして。私は、関前会長から今年度より全国ろう学校PTA連合会会長を引継ぎました柴田祐一と申します。

私の息子は幼稚部から千葉県市川の筑波大学聴覚特別支援学校に12年お世話になり、現在中学2年生として通学しております。

関会長時代の2年間はコロナ禍の中でもありPTA活動が制限されていましたが、本年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に位置付けられたことに伴い、学校生活および家庭生活も通常の活動を取り戻しつつあると感じています。

この3年間を経て、社会生活の様式や意識等が、コロナ前と比較するとずいぶん変化していると思います。例えば、学校行事の簡素化、授業やPTA活動の制限、リモート在宅ワークの普及、対面からオンラインへ等です。これらにより、子供たちが人と人のコミュニケーション能力を身につけて行く上で影響が出てくるのではないかと心配しています。将来への影響も懸念されるので、今後検証してほしいところです。

本会の総会は6月に、理事会は7月に、共にオンラインで開催されました。7月の第1回理事会では、各地区理事の皆さんから、コロナ禍にあった3年の間に、学校もPTAも活動をいろいろ見直したという報告がありました。また、事業を計画しても人が集まりづらいなどの問題があるので、現状に合わせた工夫が必要という意見もありました。

本会においても毎年会員数が減少しています。このことは、例えば、今までの活動の継続性、開催方法、予算などの観点で、現事業の持続可能性について見直す時期に来ていることに他なりません。

10月20～21日に「家庭教育を考える部会」が大阪の堺で開催されるので、大阪大会とその他の会を基にして、オンライン及び参集型の違い等について検証しながら、来年度以降の理事会、総会、家庭教育を考える部会の開催方法等を検討していきたいと考えています。

私たちの活動目的は、聴覚特別支援学校やろう学校に通う子供たちに対して、PTA活動を通して教育環境を整備していくこと、学校と連携し、子供の自立や困難に対して協同で支援していくこと、社会に送り出した後も卒業生を応援していくことかと思えます。

今の時代には、子供たちにどのような能力が求められているのでしょうか。子供たちにどのような教育環境が必要なのでしょうか。これらの古くて新しい問いについて、地区研修会や家庭教育を考える部会だけでなく、対面でもオンラインの集まりにおいても情報交換して、各学校の活動等について学び合うことが大切だと考えています。

本会は小規模校化に伴ういろいろな課題を抱えていますが、全国の会員の皆さんからお知恵やご意見をいただいて、より良い組織として活動していけるよう、私も微力ながら任期を務める所存ですので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。